



ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



一年間のあたたかいご支援有り難うございました

3月13日、年長の子どもたち64名が、幼稚園課程を修了し旅立ちました。そして翌週の3月22日には、来年度入園する子どもたちが「一日体験」に訪れました。附属幼稚園での生活を終えて去って行く子どもたちと、これから附属幼稚園の生活が始まろうとする子どもたちとの「境目」に、大事なお子様をお預かりする二年間、三年間の時間の長さと感じました。そして目の前の子どもたちとの日々



を、もっともっと大切に過ごしていきたいと、改めて思ったのです。

「附属改革」の必要性を訴えて一年。保護者の方々には、これを重く受け止め、絶大なるご支援・ご協力を頂いています。これからも、「九州の幼児教育の最先端は大分だ」と言われるように、職員一同、一層精進して参る所存です。一年間のあたたかいご支援・ご協力誠に有り難うございました。来年度も引き続き、宜しくお願い致します。

ありがとう先生ね！

園庭の桜が満開となり、附属幼稚園にも春が来ました。春は、出会いと別れの季節と言います。

とても寂しいことですが、この度の異動で、三名の先生方が園を去られることになりました。直野稚子教頭先生、伊東真理先生、吉野真由美先生です。

この三人の先生方には、大きな共通点があります。それは、いづどんなときでも笑顔を決やさないということでした。その慈しみ深い笑顔に、私たちは安心したり、ふっと肩の力が抜けたり、励まされたりしたことが何度あったことでしょうか。何よりも子どもたちが、先生方の笑顔とやさしい声かけにあたたかく包み込まれながら、本当にのびのびと成長してきました。きっと大人になって幼い頃を思い出す時、「ジャックの時計台」とともに、あたたかく包まれていた優しい時間を思い出すことでしょうか。

新しい場所でも子どもたちが待っています。これからも、先生方の笑顔でたくさんの子どもたちを包み込んで下さい。ありがとうございます。

そして、さようなら。いつまでも附属幼稚園のことを忘れないでください。

